

第 26 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨

日時：平成 27 年 7 月 10 日(金) 19:00～21:30

場所：佐土原総合文化センター 研修室（中・東）

参加者：

□市民：21 名

□専門家：

（宮崎海岸侵食対策検討委員会効果検証分科会）須田分科会長

□宮崎海岸市民連携コーディネータ：

高田講師（神戸高専）

□行政関係機関：

（国）宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所、宮崎港湾・空港整備事務所

（県）河川課、宮崎土木事務所

（市）土木課、佐土原総合支所

事務局より開会の挨拶、国、県、市の出席者の紹介を行った後、高田宮崎海岸市民連携コーディネータ（以下「コーディネータ」）の進行により議事が進められた。

まず、事務局より「宮崎海岸の侵食対策の概要」について説明した。続いて、宮崎海岸侵食対策検討委員会 効果検証分科会長である水産大学校須田教授から「砂浜の生態系」をテーマにご講演いただいた。後半は、事務局より「第 25 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」「宮崎海岸の工事と海岸の状況変化」「工事の効果や影響に関する調査結果の概要」について説明の後、談義を行った。最後に、事務局より今後のスケジュールについて説明した。

※会議の開催前 30 分程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

～「宮崎海岸の侵食対策の概要」について～

事務局より、「宮崎海岸の侵食対策の概要」について説明を行った。質疑応答の時間を設けたが、ここでは市民からの質問は出なかった。

～須田分科会長講演「砂浜の生態系」～

高田コーディネータ進行のもと、須田分科会長より「砂浜の生態系」と題しての講演の後、質疑応答を行った。講演前に、コーディネータから「市民談義所の機能と役割のひとつとして、知識や情報を共有するということが挙げられている。須田分科会長の講演を聞いて、皆で勉強していきたい」とのコメントがあった。須田分科会長の講演要旨及び質疑応答の概要は以下のとおり。

<講演の要旨>

- ・砂浜はこれまで、生態系に関して研究者や行政の間で重要視されてこなかったため、研究が著しく遅れており、海岸侵食やゴミ漂着などの問題に晒されているにも関わらず、有力な砂浜生態系保全策が見当たらない。
- ・砂浜生態系は砂丘、砂浜、サーフゾーンからなるシステムである。これら 3 者の間では物質(生物、砂のような非生物物質)の移動が活発に行われている。
- ・最も研究が遅れていたサーフゾーンの魚類の研究について、私は、大型のサーフネット(YS Surf-net)を開発し、土井ヶ浜海岸(山口県)、吹上浜(鹿児島県)、オホーツク海岸(北海道)で調査を実施して、これまでの小型器具による調査では確認できなかった多くの魚類の存在を明らかにするとともに、魚類調査の方法を確立した。宮崎海岸は、急深で高波浪という厳しい条件であるが、水上バイクやレスキューボードを使用することで調査が可能であることがわかった。
- ・サーフゾーンには多くの魚類が生息しており、これらをさまざまな視点でタイプ分けすることにより、海岸の魚類の生息場所としての特徴が見えてくる。
- ・栄養関係を把握することが、サーフゾーンの生態系を考える上で不可欠である。これまでの私の研究成果からは、砂浜地下水がサーフゾーンへの栄養塩供給の大きな源となり、魚類へとつながる一連の栄養関係が存在すると考えられる。
- ・潮間帯(満潮時の汀線から干潮時の汀線の間)は、サーフゾーン魚類の餌生物の主要な生息場所であり、生態学的な関心からだけでなく、魚類の餌料環境という漁業生産上の観点からの研究が必要である。
- ・浜に見られる、漂着物が打ち上がって線上に並んだドリフトラインは、そこに集積した動植物の遺骸や破片が浜や砂丘の生物の重要な栄養供給源であり、また、漂着物は小型動物の隠れ家としても機能する。
- ・浜の背後に広がる砂丘では、独特の砂丘植生が見られる。砂丘植生の、海側から内側に向かって変化する自然の連続性を保つことは非常に重要である。
- ・砂浜地下水に含まれる栄養塩の起源は砂丘背後の耕地からだとする研究があり、人の生活と砂浜生態系のつながりを考えることも重要である。

<質疑応答>

技術と生態系

[参加者]

- ・私は、世間で「ギロチン」と呼ばれている、諫早湾の最終閉め切り事業に携わった会社に在籍していた技術者である。「干潟を守る」ということは、工学系の間ではわからないことが多く、どうしても荒っぽく考えてしまう。今日のお話を聞いて、非常に興味を持った。

[専門家]

- ・私も以前、海洋土木系の建設会社に勤務していたため、ある程度工学分野の技術者の考え方がわかる部分もある。干潟でも砂浜でも、見た目が回復すれば、環境も元に戻るのではないかといいことをよく聞くが、そうでもないところもある。外形の修復だけでなく、そこに生き物の営みが再び作り上げられるかどうかを見ていく必要があると思っている。

海水面の上昇について

[参加者]

- ・地球上の海水の量は何万年もの間、ずっと変化していないのか。

[専門家]

- ・海ということだけに限定すれば、長い時代の流れの中では、海の水が減ったり増えたりということはある。気体・液体・固体と形状は変わっても、地球全体で見れば水の量はそう変わるものではなく、基本的には地球全体で一定である。どこかの海という視点で見れば、長い時間かけて増減するし、また、干ばつ等があれば、もう少し短い時間スケールで増減する。

[参加者]

- ・温暖化の関係で、氷山が溶けて海水が増えるということが考えられるかと思ったのだが、これからも海水が増えるということはないのか。

[専門家]

- ・将来的には、凍っていた水がすべて海に流れ込むというようなことがあれば、海の水が増えるということはあると思うが、このような環境状態(温暖化)がどの程度続くのか、それがどの程度海面の上昇に影響するのかというのはあまりよくわかっていない。
- ・昨今、温暖化イコール海面上昇と言われているが、確かにそういう現象はあると思うが、長い目で見るとそれがどの程度影響するのかというのはなかなか難しいところだと思う。
- ・ただ、これまでの地球の歴史の中で、海面が高くなったり低くなったりということは何度も繰り返しているが、過去の変動は自然の現象でなっていたのが、今起きている現象は自然の現象よりも人間の影響が強いのではないかといいところが問題になると思う。

砂浜の砂の由来について

[参加者]

- ・砂浜の砂はどうやってできるのか。上流の岩が砕けて小さくなって砂浜になるのか。砂浜というのは、上流の岩が砕けた石だけでできているのか。

[専門家]

- ・砂浜の成り立ちについては私よりも専門の方がここにはいっぱいいらっしゃるが、砂浜の砂は、陸の土砂が削られて来るもの、川から流れてくるもの、風で飛ばされてくるもの、海に面した崖が削られて来るものなど、場所によって違い、必ずしも山の砂だけが砂浜に来るわけではなくて、供給源はさまざまである。

生態系から見た宮崎海岸の特徴について

[コーディネータ]

- ・砂浜生態系の観点から見た宮崎海岸の特徴、魅力、価値等は、これまでの調査結果からわかってきているか。

[専門家]

- ・宮崎海岸ではどんな魚がいるかという調査を進めている段階で、まだ海岸の生物が食べたり、食べられたりという栄養関係の研究までは進んでいない。講演の中で、砂浜生態系のイメージ図(講演資料 p.38)を見せたが、こういったものをそれぞれの海岸で描くということが大事かと考えている。
- ・加えて、私の専門でないので特に話しをしなかったが、宮崎海岸だと生態系のイメージ図にウミガメも加わってくる。

宮崎海岸の生態系調査について

[専門家]

- ・私も宮崎海岸のサーフゾーン魚類調査に参画しているが、この調査は宮崎海岸でやることによってだいたいやり方が確立されたと言ったが、それ以前は私自身も宮崎海岸のような高波浪の来襲する場所では調査はできないと考えていた。この宮崎海岸のプロジェクトでは、調査のひとつの項目としてサーフネットを用いた魚類調査に取り組んでいただいて、学術的にも非常に大きな貢献をしていると思う。
- ・宮崎海岸のプロジェクトでは、生物関係についてはかなり詳しいことをやっていると思う。外の海岸では、港湾環境の調査で使われているようなメニューの流用をしているところが普通である。ところが、宮崎海岸の場合は、宮崎海岸の特色を考えた上での調査メニューが組みられているということで、大変ユニークな取り組みだと思っている。

～「第 25 回宮崎海岸市民談義所以降の振り返り」「宮崎海岸の工事と海岸の状況変化」「工事の効果や影響に関する調査結果の概要」について～

事務局より、「第 25 回宮崎海岸市民談義所以降の振り返り」「宮崎海岸の工事と海岸の状況変化」「工事の効果や影響に関する調査結果の概要」についてまとめて報告を行い、その上で宮崎海岸の現状に対する意見、質問を受けた。

地球温暖化及び巨大津波への対応について

[参加者]

- ・生態系の問題もあると思うが、地球温暖化と異常気象の問題を心配している。2002 年くらいにマレーシアに行ったが、既に環境保護地域のサンゴ礁が白化現象を起こしていた。温暖化が進行してくる場合に、異常気象ではなくなってきた、台風が来る年・来ない年が平均化してくるように思う。また、津波に対しても、原田先生(宮崎大学工学部 社会環境システム工学科)のシミュレーション結果を見せていただいて非常に臨場感があったが、宮崎海岸ではまだそのような外力に対応する方向になっていない。今の工法で持つのかどうかという議論をまだしなくてはいけないと思っている。

[事務局]

- ・地球温暖化の影響がどの程度あるのか、よくわからないところもあるので、地球温暖化への対応は観測データ等を確認しながらやっていくしかないのかなと思っている。
- ・今の工法で「100%」もつ、「絶対」などという言葉は、我々は使ってはいけないと考えている。データ等を確認しながら直さなければならぬところは直して、ステップアップサイクルで改良しながら考えていきたい。

[参加者]

- ・台風の強大化や、最大クラスの津波の対策は予算が付けられるのか、見通しをつけないと、想いだけではなんともならないところになる可能性もあると思う。

[コーディネータ]

- ・ご意見は、検討委員会で事務局から伝えてもらうようにしっかりチェックする。

海岸の状況変化について

[参加者]

- ・平成 25 年、26 年、27 年と写真を用いて説明があったが(資料 p. 19～p. 50)、もうちょっと前から、浜崖の後退状況等がわかるように時系列的に説明してもらえると良いのではないかと思う。

海岸の土砂量変化について

[参加者]

- ・資料 p. 17 の土砂量変化の図で、養浜をしている中で、一ツ瀬川河口右岸は土砂が増えた、石崎浜、動物園東は減っている、県管理区間、宮崎港では増えていると示されているが、この理由を説明してほしい。

[事務局]

- ・土砂の変化量というのは、その時点時点で違っているのだから、効果を見ながらやっているが、理由と結果をすぐに説明できるものではない。養浜を投入したとしても、波が来たら砂は移動して海が地形を作るので、すべて養浜のみで安定するというわけではないことがわかってきている。

植生の効果について

[参加者]

- ・養浜をして砂が付き、安定するものだと認識していたが、現場を見て砂が付いていないのでびっくりしている
- ・海岸技術者は草が生えて一人前、天然の砂浜にまさる海岸保全施設はないと考えるべきである。まさしく草が生えないような海岸保全のやり方はない。
- ・国土交通省には、緑の政策大綱や環境政策大綱というのができている。宮崎海岸の対策にはそれが考えられていないということである。
- ・一ツ瀬川より北では、天然の草が生えて、しかもアカウミガメの産卵地としては日本有数になっている。草を生やして砂が逃げないようにしないといけなとか、もう少し政策大綱等を見ながらどうやればいいのかということを考えてもらいたいと思う。

[コーディネータ]

- ・草を生やしたり、緑が増えるような海岸というのは、今日の分科会長からの講義にもあったとおり、宮崎海岸のほうでも目指していく方法である。提案という形で受け止めたいと思う。

サンドバック工法について

[参加者]

- ・サンドバックは、土木学会に特定の大学生が出したものをそのまま作っているが、本来であれば、実験を行い、日本全国の状態を見ながらやってほしい。

[コーディネータ]

- ・サンドバックを用いた埋設護岸の工法については、これまで市民談義所の中で話し合っていて、できるだけコンクリートを使わないなど、海岸保全の方向性を決めてやってきた上で実施した工法なので、特定の学生が書いたことをそのままやったわけではないということを確認させていた。

これまでの宮崎県の都市公園整備との関連

[参加者]

- ・宮崎県は都市公園の整備率は北海道について高く、県民1人当たり20m²になっている。しかも、西都原は風土記の丘、運動公園は日本で初めての国体関連施設、シーガイアは総合保養の第1号、総合文化公園は文化施設と避難所を含めて防災を兼ねた施設など、日本で1番目の仕事をやっている。できれば海岸についても、日本で初めてこういうふうになったと言えるような観光施設にしてもらいたいと思っている。今のやり方では金がかかって大変ではないかと思っている。一ツ瀬川の北側のように、自然で何もやらなくて、やり方はある。金がかからないような方法で、早急をお願いしたい。

[コーディネータ]

- ・意見、提案ということで受けたい。

動物園東のコンクリート階段計画について

[参加者]

- ・レストハウス前護岸の切れ目から、石崎浜荘の近くまで、動物園東の海岸を唯一護岸のない海岸として守ろうと考えているが、その海岸の一部に突然石詰め袋が入った。工事業者に聞くと、今後コンクリートの階段を造るという話だった。いつのタイミングでそのような話が出てきたのか、どうして突然そのようなことを始めてしまったのかと、疑問なところである。



[コーディネータ]

- ・石詰め袋を置いた経緯、今後コンクリートの階段ができるという話の経緯は、談義所の進め方にも関わる大事なことなので、事務局から答えていただきたい。

[事務局]

- ・コンクリートの階段については、ちょうどボックスカルバートを抜けた先が、砂丘から海岸へのアプローチになっているので、海岸に降りやすいように、幅が7mの階段護岸を造ってはどうかと、事務局としては考えている。

[参加者]

- ・「考えている」のではなく、やると決めているのではないか。

[事務局]

- ・決めていない。皆が要らないといえやめる。

[参加者]

- ・これまで、行政が海岸に構造物を造って、その後撤去したことがない。
- ・今、石詰め袋の周りは人が入れないように立ち入り禁止になっている。そ

- の現状を考えた上で、「撤去する」などと軽はずみなことを言っているのか。
- ・階段を造りましょうというのは、どこか、市民のほうから出てきたことなのか。

[事務局]

- ・そう思っているが。

[参加者]

- ・関連して、昨年、住吉地区の振興会会長が動物園東のボックスカルバートを抜けた先に階段ができると話していたが、市民談義所の参加者の耳には、全然入っていない。

[コーディネータ]

- ・市民としては、今までの市民談義所の中では階段の話は出てきていなかった、経緯は市民談義所では聞いていなかったという認識で良いか。
- ・階段は、事務所のほうで海岸に降りる施設が欲しいというニーズを把握して設置することにしたものなのか、それとも独自に階段を設置することを元から考えていたのか、事実関係はどのようなになっているのか。

[事務局]

- ・利用形態を見て、ボックスカルバートを抜けた先から海岸に降りているので、降りやすいように階段を造ったほうがいだろうという発想だった。

[参加者]

- ・それは、勝手に決まったということではないのか。先ほどは市民から要望があったような回答だったが。

[参加者]

- ・地元にも話がないのに、宮崎市の上層部は知っている。いつかは市民談義所の場で事務局に言わないといけないと思っていた。

[事務局]

- ・階段護岸を造ります、という話は、私から宮崎市にした。
- ・市民からの要望という認識だったが、それが間違っているということであれば、1度白紙に戻さないといけないと考えている。

[参加者]

- ・要望があったというのは、たったひとりからの要望だったのか。市民談義所で意見を取ったわけではないと思うが。今までのアンケートや意見をずっとまとめていると思うが、何人から要望があった、という答えも出るのか。

[コーディネータ]

- ・階段を造ろうという話になった経緯については、これまで市民談義所の中、あるいは談義所以外で、地域でどのような声があって検討するという経緯になったのかを整理して、事務局から市民に示すようお願いしたい。
- ・現段階では、国土交通省として、ふだん利用されている状態を見て、階段があったほうが良いのではないかとということで、階段の設置も検討していたが、具体的に「こういった構造でここに造る」ということが決定しているわけで

はないということが良いか。

[事務局]

・実際にまだ造っていないし、決定しているわけではない。

[参加者]

・決まっていなのに、現場の工業者が、「階段ができる」と、工事の受注が済んでいるような言い方を市民に対して何故できるのか。

[事務局]

・石詰めの袋の両側はサンドバックを置いているので、何故ここだけサンドバックを置かないで石詰めの袋を置くのかと、工業者から質問が来るので、階段護岸を造る可能性があるために空けておくことを説明している。

・サンドバックが一部分だけ連続していなければ、皆、なんで空いているのかと思われるのではないか。

[参加者]

・なんで空いているのかとは思わない。そこもサンドバックを入れればいいのではないか。

[参加者]

・石詰めの袋を入れる話は事前にどこからもまったく聞いていない。後から工事の関係で入れるとは聞いた。

[コーディネータ]

・石詰めの袋は仮設的なものという意味合いか。

[事務局]

・石詰めの袋は仮設である。今後、サンドバックを入れるか、又は階段護岸を造って両端をサンドバックで固めて撤去するかのどちらかとする予定である。

[参加者]

・何故今の段階でサンドバックを入れなかったのか。石を入れるよりサンドバックを入れたほうが、経費が安かったのではないか。

・そもそも前提が階段護岸を造ることになっているのではないか。

[事務局]

・階段護岸を造らなければ、サンドバックを入れる。

[コーディネータ]

・階段を設置する可能性がある場所に、現段階でサンドバックを入れておくと、またサンドバックを撤去して階段を造らないといけない。これには、お金も手間もすごくかかる。石詰めの袋は、仮設なのであとで撤去できる。階段を造るにしても、サンドバックを入れるにしても、現段階では空けておく(恒久的な構造物であるサンドバックは置かずに、仮設として石詰めの袋を置いておく)ほうが後でスムーズにいくという話ということが良いか。

[事務局]

・そのとおりである。7mを予定している階段の幅と、作業のスペース分を合わせた幅分は、サンドバックを入れずに石を積んだという経緯である。

[コーディネータ]

- ・階段を造るとしたら、コンクリートで造るとするのは決定なのか。

[事務局]

- ・階段はコンクリートでしかできない。木では、強度的に持つかどうか疑問である。

[コーディネータ]

- ・まず階段自体を造るかどうかが、そして、造るとしてもどういう素材で造るかという議論があると思う。
- ・階段を造ること自体については、市民談義所での議論の経緯を踏んで出たのであればいいが、談義所の中では議論をしていないのに、工事現場や宮崎市から話が耳に入ったので、それはちょっと違うのではないかという市民の皆さんの声かと思う。
- ・階段について、もう1度市民談義所できっちり議論して、造るか造らないかというところを決めてから、計画を進めるということで良いか。

[参加者]

- ・事務局には、立場的な発言を大事にしてほしい。階段を白紙にしますとさっき言ったが、それは石詰めの袋を撤去するということである。

[事務局]

- ・階段を造るかどうかという議論に対して、階段の計画については合意形成ができないのであれば、1回白紙に戻すと発言した。石詰めの袋を撤去すると、サンドパックの入っていないこの箇所だけ侵食が進むことになるので、現段階で石詰めの袋を撤去するというわけではない。階段が必要か、必要でないか、というのを白紙に戻す。

[参加者]

- ・動物園東地区は、住吉海岸でコンクリートや石の構造物がない唯一の1kmの海岸である。そこを何とか大事にしたい。その気持ちを突然裏切るようなことをやらないでほしい。
- ・国土交通省は、事前に何もかも説明して行動してくれるというのが市民にとって1番受け入れやすいところである。国土交通省は、力があるから、テトラポットを入れるなど、型にはまったこと以上のことができるではないか。サンドパックや養浜など。せっかく今までそういった方針でやってきたのだから裏切らないでほしい。

[コーディネータ]

- ・市民の皆さんの懸念としては、コンクリートなど人工的な構造物を極力使わないで宮崎の自然の景観を大事にするということは、これまでの談義所の中でもみんな話し合っただけで共有してきたことなのに、石やコンクリートが入ってしまうのは、談義所で話し合っただけでもないがしろにしているのではないかということだと思う。
- ・もう1度原点に立ち返って、海岸の自然の風景を大切にすることをしっ

かりと認識した上で仮設であったとしても話し合っただけでほしいという市民の提案と受け止めて、事務局には是非今後じっくり検討してもらいたい。

[参加者]

- ・国土交通省は砂浜の安息角がわかっていないのではないかと。階段の勾配は5度以上になっているので、これでは砂は逃げていく。だから、階段は駄目である。勾配を5度以下にしなければいけない。

[参加者]

- ・市民談義所での議論で結果が出ない限りは、コンクリートの階段はできないという認識でいいか。

[事務局]

- ・そのとおりである。

[コーディネータ]

- ・階段工についての議論は、どのように進めていくか、今答えられる範囲で教えてほしい。

[事務局]

- ・明確に言えるのは、合意形成をしない限りは階段を造るつもりはないということである。それをやってしまうと、国土交通省の今まで積み上げてきた信頼関係も壊れるし、国土交通省がやっているならほかの機関もやっていだろうという話になってしまうので、合意形成をしない限りは階段工に着手することはないということに約束する。

市民談義所の立ち位置について

[参加者]

- ・今回の談義所で、須田先生から食物連鎖や海岸調査法について詳しく丁寧に説明があった。今から台風が来襲することやコンクリート護岸について、市民がすごく興味があり、本当に談義が必要な時期に、なぜ今、談義所の時間を割いて勉強する必要があるのか。
- ・今、市民談義所の開催は半年に1回になってしまっていて、半年の間に海岸の状態など、参加している市民はそれぞれが勉強してきて、自分の意見をぶつけて回答をもらおうとして来ているはずである。それなのに、談義をする時間は15分。そんな中で何か解決するのか。私たちが求めてきた海岸を取り戻せるための意見が集められるのか。もう少し、談義所の立ち位置というか、市民が参加している意味合いというものを切実に考えてほしい。

[事務局]

- ・砂浜は重要だと言っているが、その理由として波を砕くという面からは見た目にはわかりやすいかと思うが、環境的なものは見た目にはよくわからないため、専門家から最新の知見を教えてもらいたい、皆さんにも知ってもらいたいという考えで、講演をお願いした。
- ・これまで、1時間くらい事務局の説明があって、談義していつも時間が足りな

くなってということのを、今まで繰り返してきたので、市民の皆さんと1回ゆっくりお話しする時間を取った第27回の市民談義所を、8月4日(火)に企画している。

- ・3～5分と時間は限られるが、昔はこうだったという話も含めて、市民の皆さんにも宮崎海岸に関する想いを教えてほしい。是非8月4日に佐土原総合支所に来てほしい。

[コーディネータ]

- ・もうひとつ、開催頻度のことも懸念されているということかと思う。時期によっては、半年空くとその間に海岸もだいぶ変わるので、もうちょっとまめにということかと思う。

[参加者]

- ・市民談義所での話し合いで出た結果を分科会や検討委員会にコーディネータが持って行って、検討してもらえという認識があるので、みんな軽い気持ちでは来ていない。勉強しに来ているつもりでもない。自分たちが感じたことや経験したことがひとつでも県や国の事業に役立てばいいと思う強い気持ちで来ている。それをよく考えてほしい。
- ・勉強をしたい人はもちろんいると思うので、それであれば、6時から始めて7時まで勉強会をするので、興味のある方は先に勉強しましょうという構成でもいいのではないかな。

[コーディネータ]

- ・市民連携コーディネータの役割は、発言のとおりで、市民の意見を委員会や効果検証分科会、その他の会で適切に報告することなので、それはコーディネータへの注文ということで、受け止める。
- ・今後の市民談義所のプログラムについても、市民の声をしっかり認識して、ぜひこういった内容でやってほしいという提案は事務局に対して行っていきたいと考えている。

海岸の立ち入り禁止区域について

[参加者]

- ・動物園東の立ち入り禁止をなんとかしてほしい。

[事務局]

- ・埋設護岸の覆土が崖になってしまっていたところがあったので、管理責任というところもあるので立ち入り禁止にしている。国土交通省としても、なんとかしたいというところではあるが、台風11号が過ぎ去った後には降りられるように工夫をしていきたいと思っている。

よろず相談所の活用について

[事務局]

- ・市民談義所の場合だけでなく、よろず相談所(宮崎海岸出張所)もあるので、気

づいたことは何でもそこに言っていただければ、可能なものは対応していくので、是非よろず相談所を活用していただきたい。

市民意見の取扱いについて

[参加者]

- ・市民談義所のアンケート結果は外部に公表されているのか。
- ・私は、完全に「コンクリートから人へ」は無理だという考え方を持っているため、これまで「必要なところはコンクリートを使ってください」と意見を述べてきた。ただ、これは動物園東の階段工のことを言っているわけではない。もし、私の意見がうまく利用されているのであれば、認められない。

[コーディネータ]

- ・ないとは思いますが、もしそのようなことがあれば、市民連携コーディネータが責任を持って市民はそういうつもりで言ったのではないと、事務局に対して言っていく。また、市民談義所の場で、自分たちが言いたいのはそういうことではないということを自ら言っていただくというのも、市民談義所の機能のひとつなので、行政側が異動で変わったときに、前任と認識が違うと思ったら言っていただきたい。
- ・国土交通省等が事業をするときに、市民の皆さんは、自分たちがこの海岸を守っているんだ、見ているんだという意識を持っていただきたい。

以 上